

特集

命を守る行動をとる、
ということ。

▼ CHAPTER「地震」

もしも大地震が 起こったら

今、有田川町を大地震が襲った
ら。家にいたら、車を運転してい
たら、真冬だったら、雨が降って
いたら、家族と離れて一人だっ
たら……。あなたがどんな状況下
にあっても、地震は突然起こりま
す。
防災に対する考え方として、し
ばしばしば「自助」「共助」「公助」が
取り上げられます。主に、自助は
「自分自身（家族）の命は自分で
守る」こと、共助は「周りの人と
協力し、一人でも多くの人を助け
る」こと、公助は「公的機関によっ
て提供される援助」を指します。

な判断が難しくなる。

命を奪う危険から逃れる



●緊急地震速報が「鳴ってから」?

海溝型の地震（南海トラフ地震など）のときには、地震の発生を事前に周知する緊急地震速報が鳴ってから、一定の猶予があるとされていますが、中央構造線断層帯による直下型地震のときには、おそらく揺れが先にくると想定されています。

●身近なものが凶器になる

大地震が発生したとき、例えば周囲に何も無い公園にいた場合、命が奪われることはおそろくないでしょう。しかし、屋内にいたり建造物の近くにいたりした場合は、家屋や家具、ブロック塀などがあなたの命を奪う凶器となります。

そのとき、命を守る最善の行動をとるためには、日頃から考えておく必要があります。

地震が起こる状況



●地震は突然起こる

近い将来、有田川町を襲うとされている南海トラフ地震は、今後30年以内に70%以上の確率で発生すると言われています。これは南海トラフ付近を震源とする地震が、過去90～150年周期で必ず発生しているため。そして、地震の発生は、詳細な予測が困難です。

また、和歌山県北部の和泉山脈に沿って走る中央構造線断層帯による直下型地震も、当町に大きな被害を及ぼすと想定されています。発生確率はあまり高くありませんが、今年6月に発生した大阪北部地震や、2年前に発生した熊本地震も決して高い確率ではない状況下で発生しています。日本で暮らす限り、いつ地震が発生してもおかしくないと考えてください。